

栗駒山の火山活動解説資料（令和8年2月）

仙台管区气象台
地域火山監視・警報センター

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。
噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

○ 活動概況

・噴気など表面現象の状況（図1～5）

大柳監視カメラによる観測では、噴気は認められませんでした。展望岩頭監視カメラによる観測では、昭和湖及びゼッタ沢上流周辺で噴気及び地熱域は認められませんでした。

20日に陸上自衛隊東北方面隊の協力により実施した上空からの観測では、前回（2025年3月）の観測と比較して、ゼッタ沢上流及びゆげ山、地獄釜の地熱域の状況に特段の変化は認められませんでした。ゼッタ沢上流及びゆげ山では引き続きごく弱い噴気を確認しました。また、昭和湖に噴気や地熱域は認められませんでした。

・地震や微動の発生状況（図6）

火山性地震及び火山性微動は観測されませんでした。

・地殻変動の状況（図7、図9）

火山活動によると考えられる変化は認められませんでした。

この火山活動解説資料は気象庁ホームページで閲覧することができます。

https://www.data.jma.go.jp/vois/data/report/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php

次回の火山活動解説資料（令和8年3月分）は令和8年4月8日に発表する予定です。

資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/kazan/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は気象庁のほか、国土地理院、東北大学及び国立研究開発法人防災科学技術研究所のデータも利用して作成しています。

本資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院発行の「数値地図50mメッシュ（標高）」及び「電子地形図（タイル）」を使用しています。



図1 栗駒山 山頂周辺の状況（2月22日）
・大柳監視カメラ（山頂の南東約20km）の映像です。

噴気は認められませんでした。

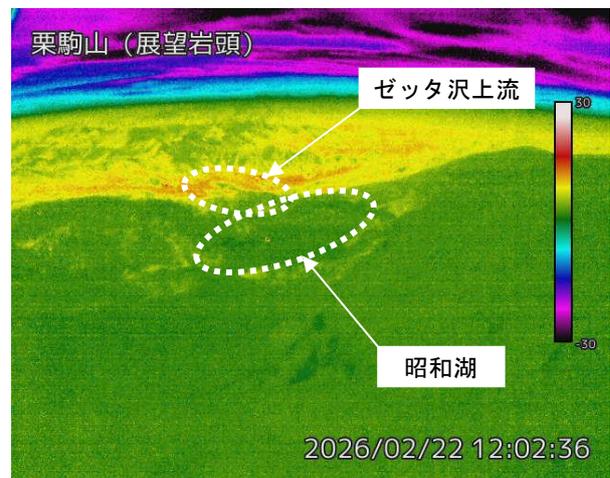
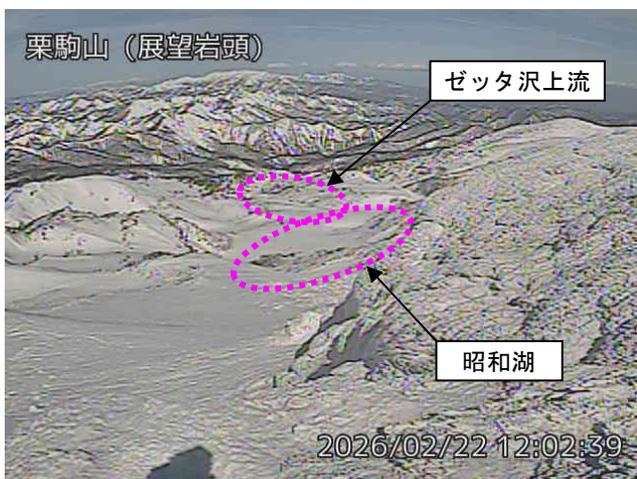


図2 栗駒山 昭和湖及びゼッタ沢上流周辺の状況（2月22日）と地表面温度分布（2月22日）
・展望岩頭監視カメラ（昭和湖の南南西約900m）の映像です。

噴気及び地熱域は認められませんでした。

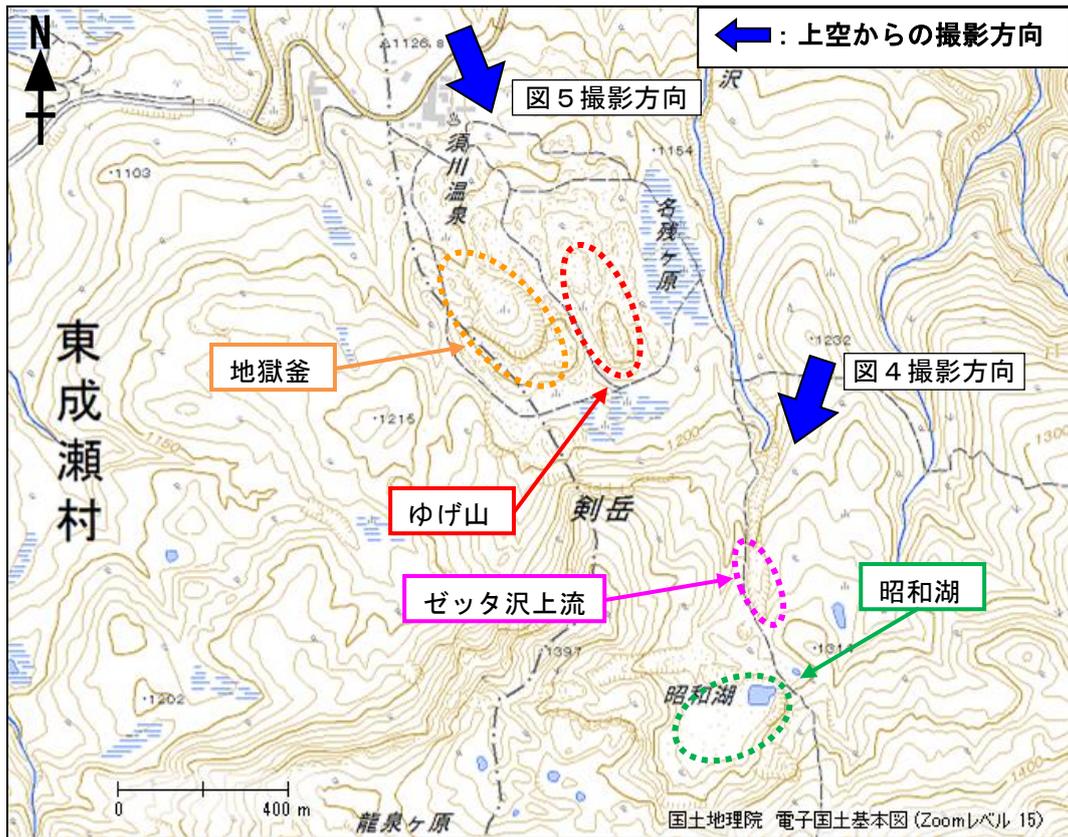


図3 栗駒山 上空から撮影した写真と地表面温度分布撮影方向

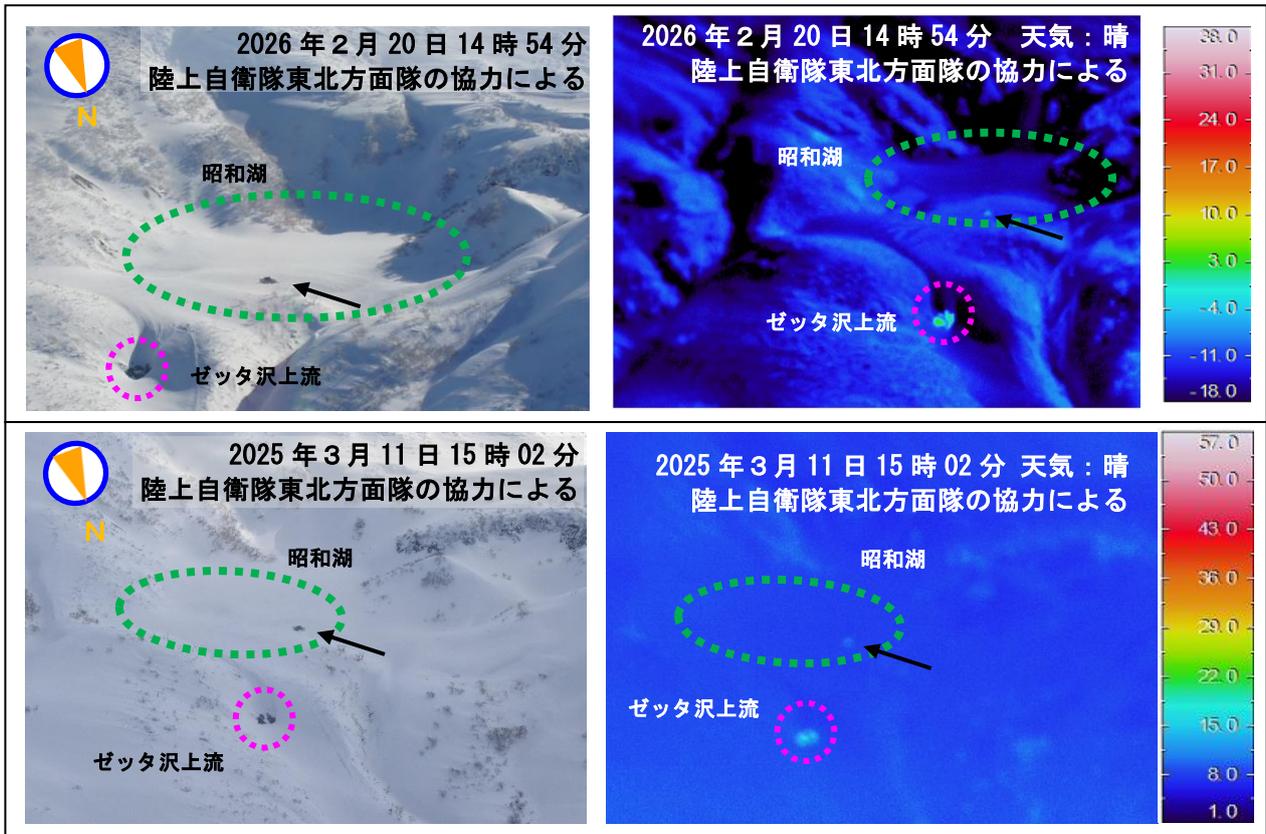


図4 栗駒山 上空からのゼッタ沢上流及び昭和湖の状況と地表面温度分布

※日射の影響により、建築物（矢印）や裸地等では表面温度が高めに表示されています。

今回の観測の結果、ゼッタ沢上流（桃破線）でごく弱い噴気を確認しましたが、地熱域に変化は認められませんでした。昭和湖（緑破線）に噴気や地熱域は認められませんでした。

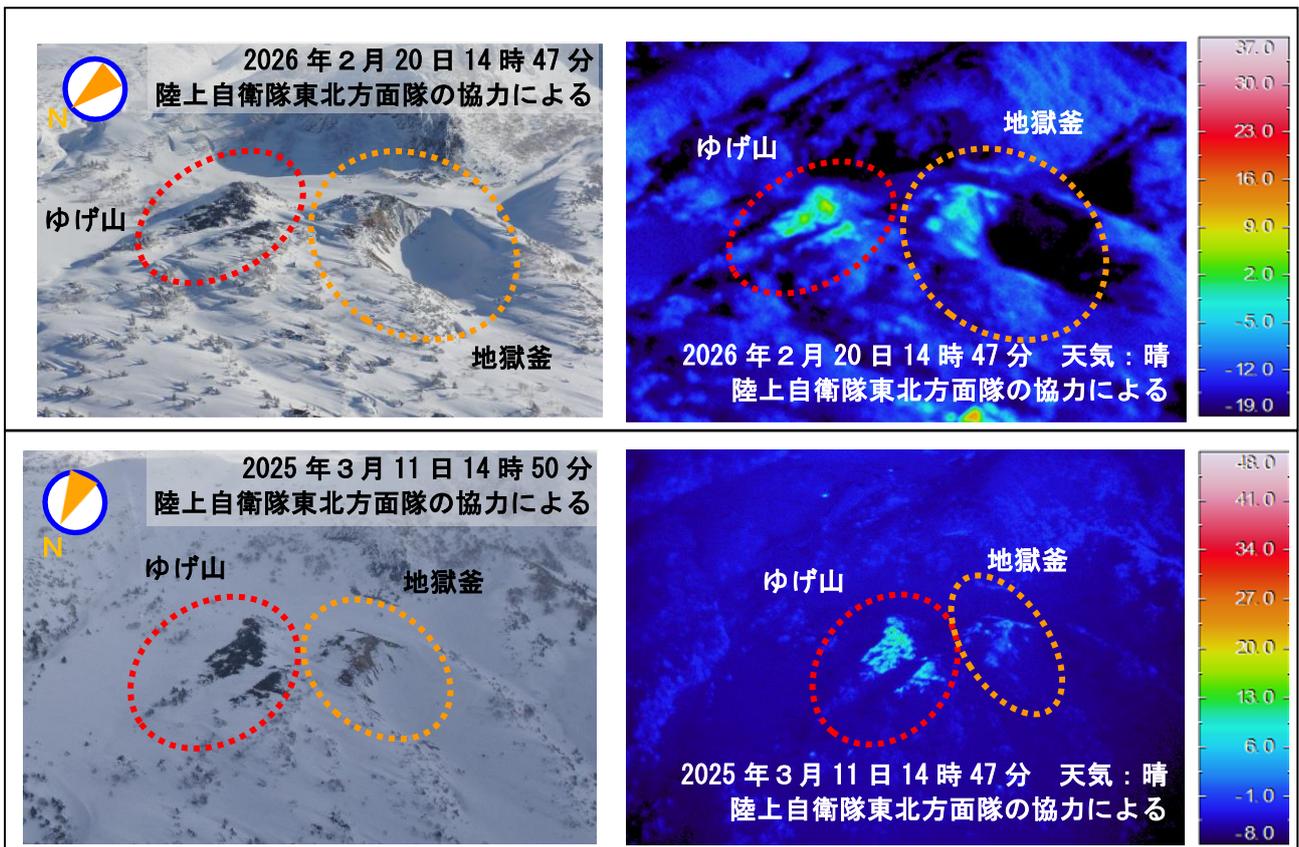


図5 栗駒山 上空からのゆげ山及び地獄釜の状況と地表面温度分布

※日射の影響により、裸地等では表面温度が高めに表示されています。

今回の観測の結果、ゆげ山（赤破線）でごく弱い噴気を観測しましたが、地熱域に変化は認められませんでした。地獄釜（橙破線）に噴気は認められず、地熱域に変化は認められませんでした。

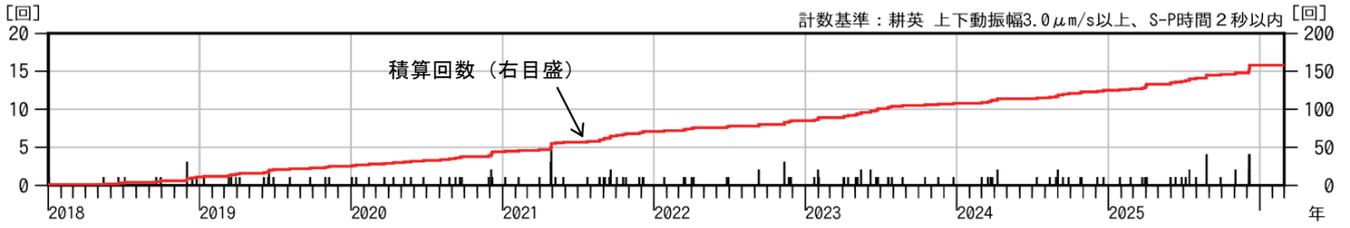


図6 栗駒山 日別地震回数（2018年1月～2026年2月）

火山性地震及び火山性微動は観測されませんでした。

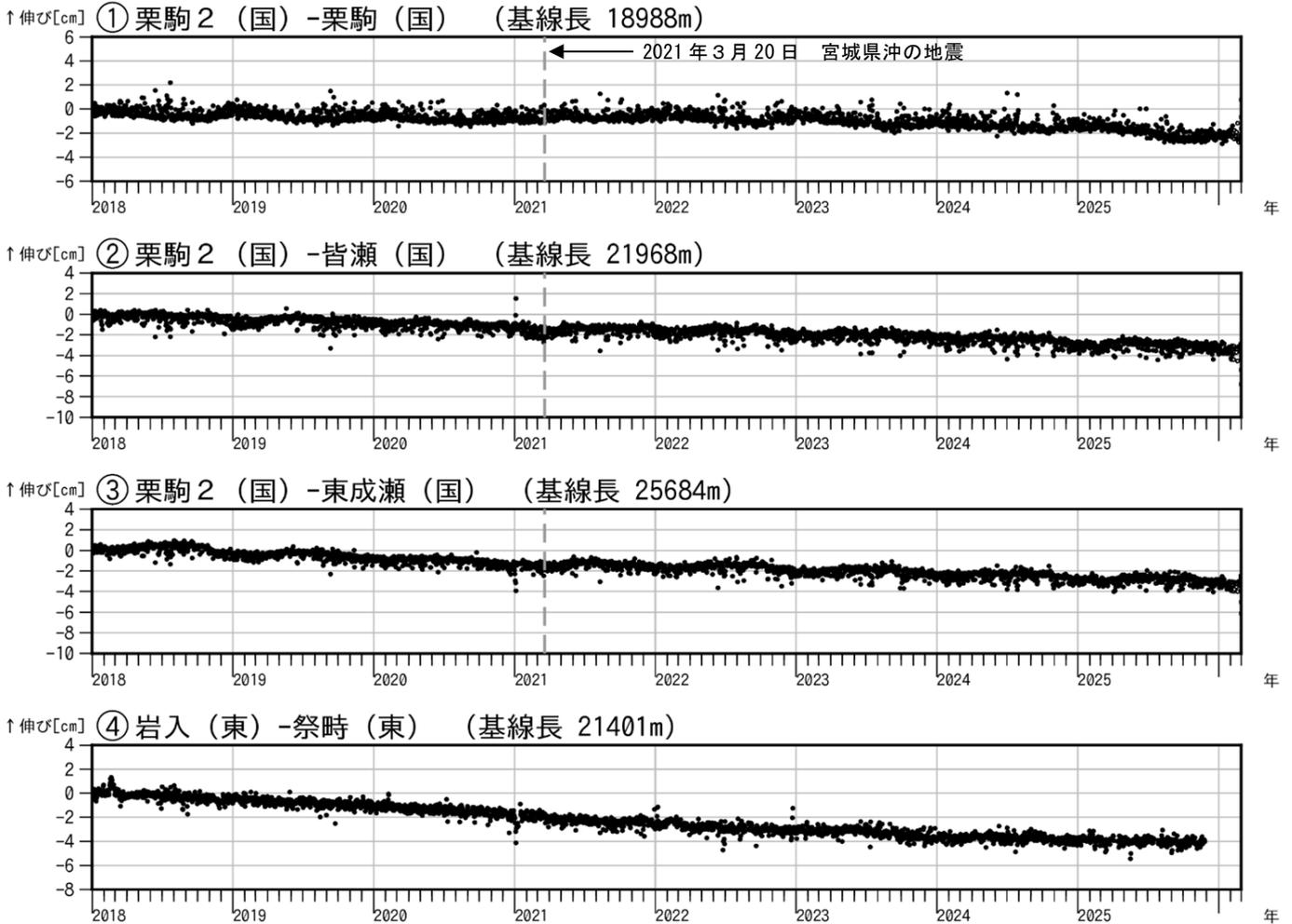


図7 栗駒山 GNSS 基線長変化図（2018年1月～2026年2月）

- ・①～③の破線は2021年3月20日の宮城県沖の地震に伴うステップを補正しています。
- ・①～④は図9のGNSS基線①～④に対応しています。
- ・(国)は国土地理院、(東)は東北大学の観測点を示します。

火山活動によると考えられる変化は認められませんでした。

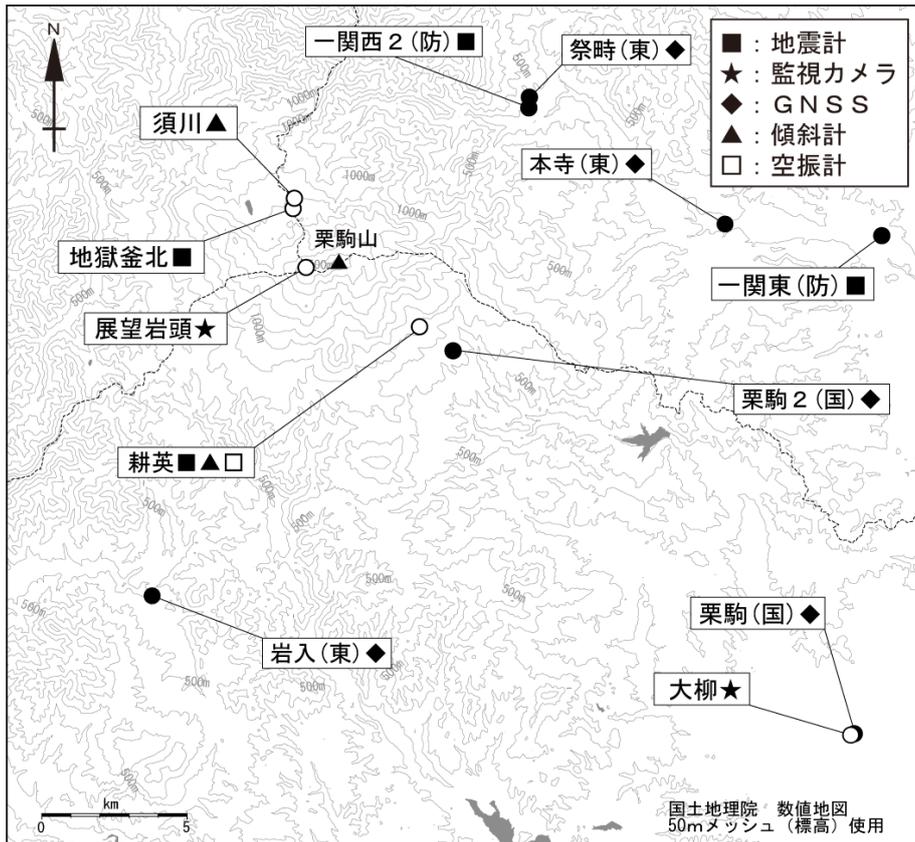


図8 栗駒山 観測点配置図

白丸（○）は気象庁、黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。

（国）：国土地理院 （東）：東北大学 （防）：防災科学技術研究所

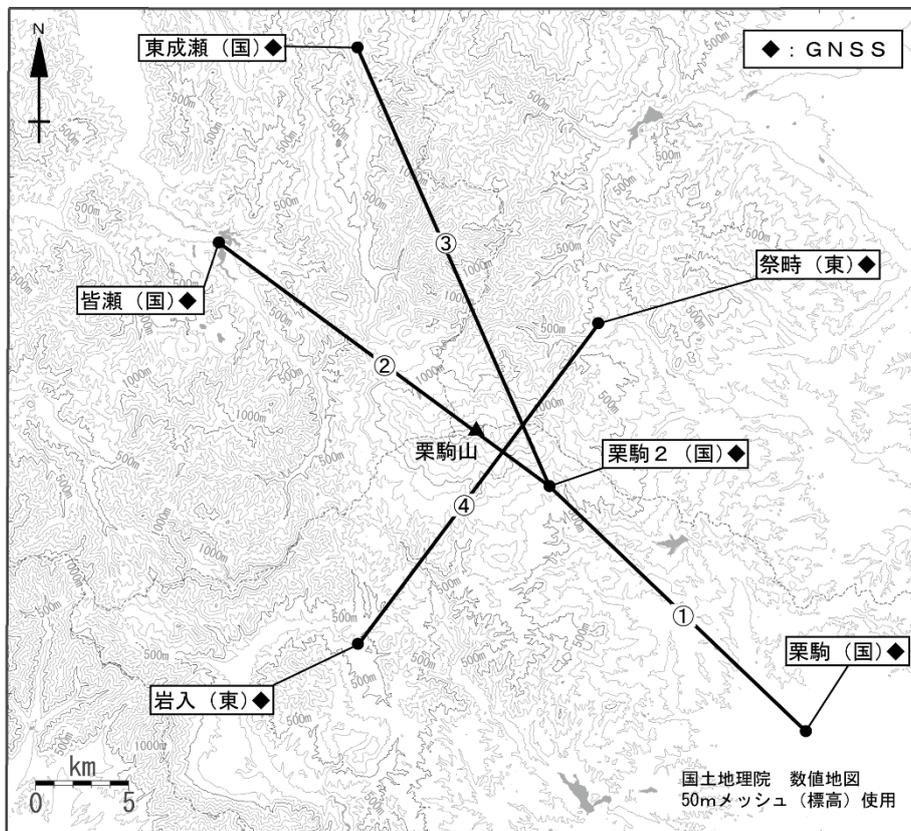


図9 栗駒山 GNSS 観測基線図

黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。

（国）：国土地理院 （東）：東北大学